

埼玉県熊谷県税事務所長賞

「税金について」

熊谷市立妻沼東中学校 三年 荻野 千明

私は、この作文を書くまで、「税金」について全く関心を持っていませんでした。

何故なら税金という言葉は、なかなか身近に感じる事ができないし、自分には関係ないことだと思っていたからです。しかし、私達が教育を受けられること、きれいに整備された道路を歩けることなどをはじめ、他にも色々な事、あってあたり前だと思っている事のほとんどが税金でまかなわれています。

税金といえば福沢諭吉の「学問のすすめ」というほんの中で税金とは「百姓の仕事は人への食糧を作ること。町人の仕事は世の中を便利にすること。そして政府の仕事は善良な市民が安心して暮らせる世の中を作ること。しかしこの政府の仕事には、沢山の人手や費用が必要だから、国民一人ひとりがわずかずつでもお金を出しあって政府の費用をまかなおうと政府と国民で約束をした。それは税金である。」と説明しています。この言葉を見て税金とは、国民と政府をつなぐ大切なキーワードのように思えました。

しかし、現実には税金からはそのような良い印象を受け取れないのが事実です。

その理由はおそらく、国民一人ひとりが税金のことを良く理解していないからだと思います。国民一人ひとりが税金のことを、税金の大切さを理解することができれば税に対する「納めさせられている」「義務だからしかたない」といった悪いイメージをなくすことができると思います。

それに税のない世界を想像してみたら良くわかると思います。もし、税がなくなったら、学校も警察も、道路の通行も有料。信号も標識もなく交通事故ばかり起こり、救急車も有料になってしまいます。そしたら、いくらお金があっても足りません。

だから、私が前に言った「取られる」という見方ではなく、むしろ「もらえる」という見の方があっているのです。そのような意識を持つためにも、税金の使われ方など、税に関する事は、よく知っておくべきだと思います。そして、どのように使われているかわかったら、今度はそれを積極的に利用していくべきです。図書館も税金のおかげで成り立っています。だから無料で本を借りることができるのです。そうやって公共施設を使っていく事で、納税の意義が実感できるのだと私は思いました。

これからは、自分も社会の一員であることを自覚し、納税者であることを意識して、税金や経済について真剣に考えていきたいと、この作文を書いて強くそう思いました。